

がんばる! にちなんびと

おおくさの会



活動の内容は

2ヶ月に1度、奇数月に句誌「おおくさ」の発行と、広報にちなんへ毎月の掲載を行っています。会員の皆さんには1人4句を投句していただくとともに、前回の句誌から10句選び4句以上に感想をつけて編集室へ送っていただいています。互いに作品を評価しあうことで研鑽し、お互いに高めあっています。

広報にちなんへの投稿は、2ヶ月に1度会員の皆さんから集めた4句を編集室で2つ選び、季節などに気をつけながら投稿しています。

自由律俳句とは

一言でいうと、「リズム良く一息で読める短い詩」ではないでしょうか。自由律俳句には、俳句のように季語の決まりはありませんし、五・七・五のような文字数の制限もありません。しかし、リズム良く一息でとなると、だいたい20文字以内になり、会員の中には17字や16字にそろえて投句されるかたもおられます。

句誌はどこで読めますか

会員さんに送っているほか、山上地域振興センターや町の図書館にも置いてあります。広報にちなんに載っていない句や、お互いの句の評価も載っていますので、興味のある方は一度読んでいただければと思います。

プロフィール

長年郷土で教職におられた山形凡平(萬亀男)先生が退職後、婦人会の文化活動の一つに自由律俳句を取れ上げられたのを発端に会を結成。

昭和53年1月から句誌の発行を現在まで継続。山形先生亡き後、指導者の井川備範先生の急死などで解散の危機があるも乗り越える。

平成23年7月に句誌通算400号の刊行を達成。

平成24年4月から「新制おおくさの会」として15名で再結成。

現在、会員10名で活動中。

広報にちなんには、昭和50年4月から山形凡平選として自由律俳句の投稿が始まり、平成5年10月からおおくさ編集室選として投稿を続けていただいている。

※今回はおおくさの会を代表して藤原寿郎さんにお話を聞きました。

会員の方が集まることは

普段の活動は主に郵便で行っています。年に1回は句会を開き集まっています。その場で句を作り、作者が分からないようにして、お互いの句をここがこうだ。とか、ここはこうしたほうが。と評価し合っていて楽しんでいます。

作句する上で気をつけることは

短いなかでも、句を読む方が想像する部分を残すことです。ですので、出来るだけ直接的な表現は避けるようにしています。厳密な決まりがあるわけではないのですが、固有名詞や地名も使わないようにしています。また、型にはまらないのが自由律俳句なので、五・七・五のリズムにはまるのを嫌います。句を作る人と読む人で感じ方が変わるのが自由律俳句の魅力だと思います。

今後は

会員の皆さんも高齢になられ、80歳代の方が中心となっています。新しい方に入っていただきたい思いはありますが、読むのはいいが作るのとはいう方もおられます。最近は娯楽の種類も変わってきたので、若い方へ広まるのも難しいと思っています。出来る限り会を継続し、句誌の発行や広報にちなんへの投稿を継続していきたいと思っています。

